

# 避難阻んだ39段

岩手県大槌町の安渡地区で、車いすの高齢者が避難所に唯一続く道の階段を上れず、津波の犠牲になった。地元町内会は震災前から町に対して度々、こうした事態を懸念し整備の必要性を訴えてきた。「なぜ行政は早く対応してくれなかったのか」。町役場も被災し機能不全に陥る中、遺族らはやり場のない怒りを抱えている。

「避難所まで行ければ助かった。本当に悔しい」。清水水章雄さん(七〇)は母ツイさん(九二)の車いすを押し、避難所の寺院「大徳院」の階段下まで避難した。寺院に続く経路は他になく、三十

## 車いす92歳 津波で死亡



大徳院に唯一続く39段の階段。車いすの女性は上ることができず、津波に流された。岩手県大槌町で

九段の階段を上らなければい。車いすを押し、ばたどり着けない。何とわざわざ遠い安渡小に避か抱え上げようとしたと、難しうとは思わなかつころに津波が襲い、ツイさんと振り返る。

安渡小は一九八一年の地区の避難所は標高二〇段の大徳院と、山林を挟んで東にある安渡小の二カ所。清水水さんが住む新港町は大徳院が最寄り避難所で、安渡小が目指せば五百ほど遠回りになる。章雄さんは「早く逃げるので精いっぱい指摘する。今も約二百六

## 岩手・大槌町 バリアフリー要望したのに

十人が生活しており、無職の女性(八三)は「余震も不安なので早く仮設住宅に移りたい」と話す。

町が各町内会に防災マップ作成を要請した二〇〇八年、佐々木さんらは避難経路のバリアフリー化と、安渡小の早急な補強工事、建て替えの必要性を訴えた。だが、町は「予算がない」「堤防で津波は防げる」と回答。昨年二月に起きたチリ大地震津波で、再度要望しても取り上げられなかったという。

防災計画を主導した加藤宏暉町長(六七)は「当時」は津波で亡くなった。「死者にむち打つことになる」と、不満を語りたがらない住民もいる。町総務課は「防災計画が甘かったと言わざるを得ない。今後課題を精査し、対応に当たりたい」と話している。

